

令和 8 年度 県立土浦第二高等学校自己評価表

目指す学校像	自律的で責任感のある知識人として、多様な価値観をふまえ協働して活動し、現代社会を生きるための柔軟な思考力・判断力・表現力をもって、客観的に分析・考察することのできる人材を育成します。 1 未来に必要な資質・能力を身につけ、個々の学力の伸長と進路希望の実現を図る学校 2 豊かな感性や人間としてよりよく生きていく力を高める学校 3 保護者や地域との連携を推進し、信頼される開かれた学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	豊かな人間性、幅広い知識と柔軟な思考に基づく判断力・行動力を有し、変化の激しい社会を心豊かにたくましく生きる人材を育成する教育活動を通して、魅力と活力ある学校を目指す。 1 未来に必要な資質・能力を身につけ、個々の学力の伸長と進路希望の実現を図る学校。 2 豊かな感性や人間としてよりよく生きていく力を高める学校。 3 保護者や地域との連携を推進し、信頼される開かれた学校。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	1 授業の充実を図り、知的的好奇心や学習意欲を高め、情報活用能力を育成しながら、自主的・能動的な学習習慣を確立させる。 2 組織的・系統的なキャリア教育を充実させ、自己探究や自己実現に努める生徒を育てる。 3 特別活動等への積極的な参加を促進し、豊かな感性や道徳の実践力を高める。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	1 「夢探し！夢づくり！！そして、夢のゴールへ！！」のキーワードのもと、夢の実現を目指す生徒。 2 現代社会を生きるための実践的で幅広い知識・技能の習得に努める生徒。 3 柔軟な思考力・判断力・表現力の習得に努める生徒。 4 多様な考えを受容し、協働して課題解決に努める生徒。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 国公立大学の現役での合格者数は、8年連続で100人を超えた。生徒・保護者の進路希望をふまえ国公立大学を志望する生徒に対して情報提供を充実させる。また、国公立・私立難関大学の合格者を前年度以上に増加を図る。さらに、生徒の進路希望実現のための具体的方策を分析・検討するとともに、個々の学習意欲の向上と計画的な家庭学習の実践についての重要性を説き、面談を効果的に活用しながら、生徒個々に寄り添う指導体制を構築する。	1 授業の充実と学習習慣の確立	・授業改善推進チームを中心として、校内研修や学習会により、授業を振り返る活動を推進する。 ・「生徒の授業満足度」について、授業担当者の80%が評価平均3.5以上とする。 ・「DXハイスクール」事業を活用し、探究的な学習活動をより推進させる。	
	2 授業改善	・ホームルーム・委員会・部活動などの生徒の主体的活動を支援し、道徳の実践力を高める。 ・ルールやマナーを守る土浦二高生としての品格ある行動を確立させる。 ・生徒各自がスケジュールを管理し、健康的・自律的で責任ある生活習慣を確立させる。	

別紙様式 2 (高)

2 部活動参加率は 85%と活発な活動が行われ、各種大会で優秀な成績を収めている。また、学校行事をはじめ、委員会やボランティア活動についても、生徒主体の運営体制の強化を目指す。 3 年間 3 回の生徒個別面談週間、年間 2 回の保護者面談等を通し、保護者との連携を図りながら生徒の指導にあたっている。授業公開やホームページ、グループウェア等を活用し、さらなる情報発信を推進し、本校の教育活動に対して、保護者や地域関係者の協力や理解を得ることを目指す。		・教室の清掃をはじめとした校内美化活動を通して、奉仕の精神と豊かな心を育成し、安心・安全な学校生活を確立する。 ・各学年ともにホームルームにおいて「キャリア・パスポート」を活用し、記録を用いた話し合い活動や意思決定により、生徒一人一人のキャリア形成に努める。	
	3 特別活動の充実と基本的生活習慣の確立	・海外研修を継続的に推進し、留学生の受け入れや海外の教育機関との国際交流活動を積極的に取り組む。 ・多様性に配慮することのできる将来のグローバルリーダーとしての素養を養い、複雑化する社会課題の解決に向けた、国際人としての行動力を身につける。	
	4 国際理解の推進	・保護者面談を計画的に実施してニーズに応える情報提供に努めることで、教育活動への理解と支援を得る。 ・魅力ある学校行事を創意工夫して、保護者の積極的参加を促す。 ・ホームページの定期的更新と広報資料(学校パンフレット等)の充実を図り、組織的・計画的な生徒募集対策と教育活動の情報をきめ細かく発信する。 ・地域資源の活用や高大連携の活動を充実させ、地域に発信する。	
	5 保護者及び地域との連携の推進	・教職員の共通理解を図り、新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制の構築し、限られた時間の中で教員の生徒と向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図る。 ・業務の I C T 化を一層推進し、業務の効率化とペーパーレス化、類似業務の統廃合を行う。 ・家庭や地域と学校の役割分担を見直すために、家庭や地域への情報発信を推進し、意見聴取しながら校務に反映させる。 ・教員以外の外部人材の専門スタッフ等との連携強化。 ・教材教具等の共有や外部の教育資源とデジタル教材の活用推進。	
	6 働き方改革	・授業改善推進チームを中心として、校内研修や学習会により、授業を振り返る活動を推進する。 ・「生徒の授業満足度」について、授業担当者の 80%が評価平均 3.5 以上とする。 ・「D Xハイスクール」事業を活用し、探究的な学習活動をより推進させる。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上に努める。	・教科書および文法書、便覧等を活用し、古典についての基本的な知識を身につけさせる。			
			・教科書および参考書等を活用し、読解に必要な概念や語彙を身につけさせる。			
		受験に対応できる学力を涵養する。	・授業内容を精選し、論理的思考力に裏付けられた応用力を身につけ、多様化する入試に対応する力を培う。			
			・新傾向に対応した問題演習を反復し、JCTを活用しながら実践的な国語力を伸ばす。			
			・新傾向に対応した問題演習を反復し、JCTを活用しながら実践的な国語力を伸ばす。			
		小論文を書く力を育成する。	・様々な文章を批判的に読むことで、思考力を養う。			
	地歴公民	家庭学習習慣の定着を図る。	・論理的な思考をもとに、的確に表現する方法を身につけさせる。			
		学力の向上を図る。	・自学に対応した課題を実施し、物事を深く探求する力を養う。			
			・受験学力養成のため定期試験を工夫し、解説を通して理解を深めさせる。また、職員自らが受験問題にあたり、傾向や難易度を把握する。			
			・生徒の希望や状況に応じた課題を示し、JCTを活用しながら個別の指導を行う。			
		家庭学習習慣の定着を図る。	・効果的な課題提示を工夫・実践し、家庭学習の定着を図る。			
		現代社会の諸問題との関連性を考えさせる。	・資料やデータを多角的に分析して、視野の拡大や異なる考えに対する柔軟性を涵養する。			
	数学		・主権者教育を授業の中に取り入れ、生徒の主体的、実践的態度を育成する。			
		基礎的・基本的な知識・技能の定着 思考力・判断力・表現力の育成 主体的に学習に取り組む態度の育成	・生徒の実態に応じた指導計画と指導内容・方法の工夫改善を図る。			
			・教科書を用いた学びを中心とし、副教材・小テスト・単元テスト等の活用を通して、生徒に自分自身の学びを振り返らせる手立てを講じる。			
			・問題演習の時間を十分に確保し、生きて働く論理的思考力の育成を図る。			
			・生徒を丁寧に見取り、生徒の実態を鑑み必要に応じて課題設定・手立てを講じる。			
		ICTの活用	・生成AI・電子黒板・Google Workspace 等を教員が活用し、生徒の効果的な学習に資する。			
	理科		・生徒が学習用端末を活用するよう必要な手立てを講じることで、生徒の主体的な学びを促進する。			
			・遠隔授業等の取り組みが進む中で、より充実した学習活動となるよう指導方法・環境づくりに等について研究・研修を行う。			
		教科事務の円滑な遂行	・学年教材費予算管理、教科書選定、教科書早期使用、消耗品の管理等について、隣学年へ事務手続の継承を図る。			
			・教育課程に関して入試の動向を見ながら柔軟に変更できるよう検討を続けていく。			
		学力の向上。	・基礎的な知識を確実に習得し、さらに応用的な内容についてもしっかりと理解できるような授業を展開し、学力向上を図る。			
		実験・観察を通して自然に対する関心や探究心を高める。	・共通テストや個別試験等に出題された実験内容を、各科目で検討して考察方法などを理解させるとともに、授業内での実験・観察を通して自然観を身につけさせる。			
	保健体育	家庭学習の習慣化。	・定期的な課題を提供し、自学自習による課題提出を通してICTを活用しながら家庭学習の習慣化を図る。			
		入試制度の研究。	・共通テストに対応できる学力を身につけさせるために、入試制度の研究を進める。			
		健康安全への理解、正しい意思決定と実践力の向上。	・ICTを活用した視聴覚教材・資料等を効果的に活用し、学習の理解度を高める。			
			・グループワークを取り入れ、言語活動を活発にさせる。			
		運動の考え方について理解し、体力の向上を図る。	・学習カードを通して、授業ごとに自分の課題や反省を考え、運動への考え方を養わせる。			
			・体力テストの結果から自己の体力を把握させ、体力の向上を目指し年間を通して継続的に体カトレーニングを行う。			

教 科		様々な運動への参加の仕方や実践方法について学び、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	・生涯スポーツとしての視点を養うことのできるような教材、指導方法の精選する。 ・基礎的 技能を学ぶなかで課題を設定させ、練習に取り組みゲームを楽しむ。 ・ICTを活用するなど、お互いに教えあう活動を取り入れ、助け合いながら運動技能向上を図る。		
	芸術	学びの意義を実感できる学習活動の充実。	・美的情操を培う各科目における教材、指導方法の精選。		
		表現と鑑賞の能力を高める。	・ICTを活用しながら鑑賞授業を充実させ、鑑賞で得た知識を表現に生かし有機的に関連付けながら、両面の学習活動を進行し、芸術表現に必要な技能を身に付けさせる。		
		芸術的感性と言語能力の向上。	・生徒同士で積極的に意見を交換する場面を設定し、活発な言語活動を行う。感性を高めあい、お互いに創意工夫しよりよいものを創る姿勢を育む。		
	英語	4技能の習得を図りながら学力の向上を目指す。	・生徒の実態に応じた指導計画の改善と工夫を図る。 ・大学入学共通テストに対応するための技能を育成する工夫を図る。 ・授業内のコミュニケーション活動を充実させる。 ・家庭学習、休業中の課題に副教材等を活用して多読の指導を行う。教材を精選し、様々な話題に触れさせることで視野の拡大に努める。 ・小テスト・考査等を利用して語彙・文法・構文の定着を図り、表現力を高める一助とする。 ・英検等の資格検定にも積極的に取り組ませ、意識を高める。 ・授業内でCTを活用する。		
		家庭学習習慣の定着。	・学習課題の提出・点検及び授業の予習の徹底を図る。 ・学習が不十分な生徒については補習等に対応する。		
		自立した生活者に必要な基礎的・基本的な知識と技能を育成する。	・実験や実習、ロールプレイングなど実践的・体験的な学習活動を計画的に実施する。 ・定期テストや振り返りシートを活用し、生徒の理解度を定期的に確認する。		
		生涯を見通し、世界に目を向け、生活上の課題を解決するための実践力を育成する。	・生徒がICTを活用しながら主体的・対話的に学習する場면을効果的に設定する。 ・生徒が考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する場면을効果的に設定する。教科横断型の学習を取り入れ、生徒の多角的に物事を捉える力を養う。		
		様々な人々と協働し、生活を主体的に創造しようとする態度を育成する。	・生徒が家族や地域社会の方々と協働し、家庭や地域社会をより良くするための活動を主体的に実践できるような環境を整える。		
	情報	情報モラルと情報に対する自己責任の育成を図る。	・教科書や情報モラル副読本、新聞記事やネット上のニュース等を教材にして、情報モラル、情報セキュリティ等、情報社会において求められる基本的な心構えを身につけさせる。		
		入試に対応できる能力を育成する。	・問題演習を通して、共通テストに対応できる力を養う。		
		情報を主体的に活用する能力を育成する。	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理するための基礎的な知識と技能を習得させる。 ・各種ソフトを使用しながら、ICT機器をコミュニケーションツールとして活用する能力の育成を図る。		
教 務		教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	・学習指導要領を適正に運用するとともに、本校の特色を生かした教育課程の実現に向けた検証・改定を行う。 ・教員相互の授業公開等を通して、授業力の向上に努めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業への改善を図る。 ・各学年、各教科との連絡を密にし、授業時間の確保に努める。 ・各教科において年間指導計画を作成し、その活用を図る。 ・探究的な学びを促進する教育課程について研究を行いICTを活用しながら各学年と連携して実施する。 ・人権教育や特別支援教育に関する啓発を推進する。		
		適切な行事計画を作成し、教育活動の円滑な実施に努める。	・学習と部活動・学校行事とのバランスを考慮し、学校行事の精選を進め、土曜講座を含めて教育効果の高い年間行事計画を作成する。 ・学校評価の結果から問題点を検証し、より良い教育活動の改善を図る。		
		計画的・広域的な広報活動を推進する。	・中学生対象の学校説明会において、動画等を活用し、中学生・保護者にわかりやすく充実した説明会を実施する。		

		・いばらき教育の日の公開授業や各種説明会を通じて、教育内容の広報に努める。			
	事務処理の効率化を図る。	・情報部と連携し、校務運営システムを適切に活用し、成績処理、成績一覧表・通知票等の処理を円滑かつ確実に行う。 ・奨学金等に関する広報活動・事務処理を的確に行う。			
進路支援	個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導を通して、一人ひとりの生徒の進路希望の実現を図る。 学年との連携協力の下、進路に関する行事を計画・実施し、生徒の進路意識の高揚とキャリア教育の推進を図る。 生徒一人ひとりの学力の伸長を図るとともに、学年との連携協力の下、入試や模試の分析を行い、適切な進路情報を提供する。	・進路希望調査、進路・学習に関する意識調査を実施し、生徒の現況を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて、各学年に対して適切な進路・学習指導をサポートする。 ・個々の生徒の進路希望や能力を把握して適切な進路指導につなげられるよう、時期に応じた個別面談・指導の実施を促す。 ・公開講座やオープンキャンパス等の情報を提供して参加を促し、大学や学問研究に対する早期の意識付けを行う。 ・3年間を見通した行事を計画し、「キャリアガイダンス」、「ワンデーカレッジ」等の進路関連行事を有意義なものとし、キャリア教育を推進する。 ・生徒・保護者対象の進路講演会を適切な時期に実施しICTを活用しながら最新の有用な進路情報を提供する。 ・「進路ナビゲーター」や「進路便り」を発行し、各学年の適切な進路指導をサポートする。 ・多様な入試制度に対応するために、面接・小論文等の対策について学年を越えた指導を充実させる。 ・家庭学習時間の確保のため、各学年や各校務分掌等との連携を図りながら方策を検討する。 ・各学年と連携しながら課外授業（平日・土曜日・長期休業中等）、模擬試験を計画・実施して、一層の学力向上を図る。 ・多様な入試制度を整理・分析し、生徒との面談に活用できる適切な進路情報を提供する。 ・入試結果・模試結果を多面的に分析し、各学年や各教科の学習指導・進路指導の改善に寄与する。 ・各予備校等の教員対象の授業・研修情報を提供し、教員の授業力、受験指導力の向上に寄与する。 ・教員対象の進路研修会を実施し、今後の入試制度の変化に対応するために教職員全体で研究を進める。 ・高大接続改革及び大学入学共通テスト等に関する研究を継続し、保護者・生徒、教職員への情報提供を適宜行う。			
生徒指導	規律ある生活態度や社会規範を順守する態度を育てる指導を、全教職員の共通理解のもとで推進する。 安全への意識を高め指導を推進する。 教育相談体制の充実を図る。 生徒指導上の情報の共有を推進する。	・HRや特別活動、学校行事、授業等様々な場面において、挨拶と身だしなみを意識して指導し、基本的生活習慣を身に付けさせる。 ・着こなし強化週間やさわやかマナーアップ運動等を通して、その意義を十分理解させ、生徒自ら規範意識の向上を図れるようにする。 ・校内の決まり事や公共マナーが守られているか、常にチェックする意識を持つ。 ・交通安全週間、長期休業明け交通安全指導時には、改めて交通安全の意識を持たせるように努める。 ・警察や関係機関との連携を密にし、不審者情報や交通事故情報等を迅速に提供する。また地域の方々から信頼を得られるように交通安全及び防犯意識を高める。 ・カウンセラーや環境保健部と連携し、生徒・保護者・教職員の要望を反映しカウンセリング活動の充実を図る。 ・ICTを活用して各学年からの生徒指導上の問題点や意見をとりまとめ、生徒指導の充実を図る。 ・研修会や情報交換会の内容など生徒指導に関する内容を提供する。 ・携帯電話・インターネットの安全な利用について周知させる。			
特別活動	生徒の豊かで、充実した高校生活のために、以下の事項を学年や他分掌と協力して実施する。 今後の部活動のあり方を検討する。	・運動部活動の地域移行が進む中で、それに対応できる環境を整えておく。また、生徒や顧問にとってより良い今後の部活動のあり方を検討していく。 ・部活動環境の改善に向けて、各部からの要望を集約し、予算要求をしていく。			

		・部活動の学校外指導者を積極的に活用出来るように要望は続けていく。 ・各部の顧問と協力して、部室の管理や清掃の徹底を図る。			
	HR活動の充実。	・充実したHR活動が実施できるよう、各学年との協力関係を築いていく。 ・HRにおいて「キャリア・パスポート」を活用した記録を用いた話し合いや意思決定により、生徒一人一人のキャリア形成に努める。 ・体育館及び他の施設の使用の調整を図る。			
	特別活動の記録や広報活動の充実を図る。	・壮行会・伝達表彰等を通して、生徒の活動の成果を積極的に発信していく。 ・部活動や行事の記録及び写真を保存し、広報活動や今後の活動に役立てる。 ・生徒会誌の記事の内容の充実を図る。 ・部活動の活動状況や成果をホームページ等で積極的に公開していく。			
	特活行事の運営方式・日程・内容等の検討を行う。	・各種行事の日程や実施方法は随時検討し、より充実した学校行事を目指す。 ・定期的に生徒会役員との打ち合わせを実施し、生徒会活動の活性化を図るとともに、行事の企画力の養成を図る。 ・生徒会活動の年間計画を作成し、ICTを活用しながら、より充実した内容とするための方策を講じる。			
図書館	図書館の利用促進と委員会活動の充実を図る。	・図書を充実させる。特に「総合的な探究の時間」に役立つような図書の充実に努める。 ・生徒による委員会活動を活性化し、学校図書館運営に主体的に参加させる。			
	図書館の機能充実を図る。	・土浦市立図書館との連携を強化する。 ・図書館が主催する行事を通じて、生徒の読書活動の推進に役立てる。			
	館内の環境整備を図る。	・本の整理整頓 ・本の廃棄 ・蔵書点検			
環境保健	快適な学習環境の整備。	・清掃徹底週間を適宜実施し、特にトイレと手洗い場の清掃徹底を図る。 ・教室の空気環境改善のため、天窓・対角線上の窓の開放と壁掛け扇風機による空気の攪拌を促す。 ・エアコン、ストーブの使用上の注意事項を守るよう指導する。			
	疾病予防と健康管理能力の育成。	・疾病予防教育の充実と、欠席状況を迅速に把握しICTを活用しながら感染症蔓延防止に取り組む。 ・感染症対策をしながら、各種検診・検査を円滑に進行できるよう工夫する。 ・1年生対象の歯科衛生と性教育に関する講話を通して、生徒の意識を高める。			
	防災意識の向上と地域との連携。	・「避難経路」、「巨大地震（震度5強以上）発生時の対応について」を年度初めに周知徹底する。また、改善すべき点を随時検討し、見直す。 ・避難態度を一層向上させ、安全かつ迅速な避難誘導方法を工夫する。 ・避難訓練に於いて、感染症対策をしながら、生徒と周辺住民とが協力し合える訓練形態を工夫する。 ・職員緊急連絡網を年度途中において必要な際に更新する。			
渉 外	家庭、地域、学校との協力体制をさらに強化する。	・PTA評議員の活動を活発化し、ICTを活用しながら、生徒支援部と連携して、校外指導を実施する。 ・県や土浦市と連携し、さわやかマナーアップ運動等のあいさつ運動等に積極的に参加する。			
	保護者に学校の情報を積極的に提供し、教育活動への理解と協力を図る。	・PTA総会への出席者数を増加させる。 ・研修委員会主催のPTA主催行事の充実を図り、参加者を増加させる。			
		・PTA本部役員を中心として、PTA全国大会・関東大会への保護者の積極的な参加を図る。			
	尚綱同窓会等に本校の情報を積極的に提供し、学校への関心を高め、教育活動を積極的な後援の推進を図る。	・土浦二高PTA広報紙「であい」を年2回発行し、本校の教育活動を良く理解し、積極的な後援の推進を図る。 ・尚綱同窓会等と連携を密にし、積極的に学校への後援体制の推進を図る。			
情 報	情報発信の充実。	・ホームページおよびスクールガイドの充実に努め、広く情報を発信する。			

	校務支援システムの安定した運用。	・教務部との連携を図り、校務支援システムの円滑な運用を行う。 ・校内ネットワークの安定した運用管理と保守を行う。		
	校内ネットワークの整備とセキュリティ管理。	・個人情報の保護と情報管理の徹底を図り、セキュリティ向上に努める。 ・情報機器の管理と整備を進める。		
	学習端末の導入活用。	・電子黒板等ICTの活用の補助。 ・学習者用端末の活用の補助。		
探 究	指導計画の作成・実践・ブラッシュアップ及び他教科との連携強化	令和7年度の活動記録をもとに、土浦二高生や地域の実態に応じて指導計画の改良を試み、ブラッシュアップした形で実践する。特に他教科授業との連携を深める。		
	外部のシステムなども活用した組織的な指導体制作り	授業・学校行事・部活動などの様々な場面で、生徒が主体的・協働的に探究活動を行えるよう、全職員による協力体制作りを目指す。 ジャパンナレッジschool(1～3年生)、クアリア(2年生)、外部講師などの活用をさらに進める。		
	前年度の探究活動成果物の活用及びあゆな祭などの学校行事を含めた表現活動機会を増やし、支援する。	前年度成果物(論文集、ポスター集)を教室、図書室等に配置し、生徒による閲覧を進め、探究の質を高める支援をする。 探究活動の過程や成果のプレゼンテーション等、表現の機会を作り、質疑を通して対話的な学びを推進する。また、発表の機会に相互評価することで、発表技術の向上を促進する。 外部機関での発表も支援する。		
事 務	施設設備の安全確保と学習環境の整備。	・校舎内外の巡回を行い施設設備の使用目的、使用状況を多面的に把握して、教育環境の適正な整備を行う。		
	予算の効率的・効果的な執行。	・適正な学校運営のため、管理職や教職員等と連携を図りICTを活用しながら学校予算の効率的・効果的な執行を行う。		
1学年	予習、復習の習慣化と家庭学習時間の確保。	・学習時間調査、個人面談の実施。 ・適切な学習課題の提示、小テストの実施。 ・各種課外の実施、外部英語検定、海外研修等への対策、サポート。		
	新教育課程、入試改革への対応。	・主体的、協働的な「探究」を実現するCTを活用した授業づくり。 ・自分の考えを可視化し、論理的にわかりやすく伝える力の育成。 ・「探究」含め、あらゆる授業におけるICT(タブレット等)の積極的活用。 ・活動履歴の作成等、新方式の入試に対するサポート。		
	確かな職業観の育成と適切な文理コース分け。	・個人面談、保護者面談の充実。 ・各種講演会、説明会、各種課外の実施。 ・各種ガイダンス、セミナー、オープンキャンパス等への積極的参加の推奨。 ・校外模擬試験の実施と結果分析、事後の有効活用。		
	高校生らしい服装容儀の徹底。	・服装、頭髪検査の実施、及び日々の学校生活、授業の中での指導、説諭。		
	規範意識の高揚と道徳実践力の育成。	・道徳の授業やHR、清掃活動等を通しての、道徳的な判断力や態度の育成。		
	交通安全指導の充実。	・生徒支援部との連携による校外指導の実施。 ・HR活動等を通じた交通安全指導の徹底。		
	心身の健康管理及び教育相談の充実。	・SC、養護教諭、保護者等との連携強化。		
2学年	既習内容の確実な定着、教科の特性に応じた適正な予習復習の習慣化と家庭学習時間の確保。	・個人面談の実施、小テストの実施、適切な課題量の調整。 ・スタサブ等、ICTを活用した適切な学習課題の提示。 ・小論文指導、英語外部検定対策の継続。 ・土曜課外や長期休業中の課外の実施、内容の充実。		
	進路目標の具体化。	・オープンキャンパスの積極的活用、探究活動の実施。 ・各種講演会・説明会・ワンデーカレッジの実施。 ・校外模擬試験の実施と結果分析、事後の有効活用。		
	高校生らしい服装容儀の徹底と規範意識の高揚。	・服装容儀指導の実施及び日常生活での注意喚起・指導。		
	交通安全指導の充実。	・生徒支援部との連携による校外指導の実施。 ・HR活動等を通じた交通安全指導の徹底。		
	心身の健康管理。	・SC、養護教諭、保護者などとの連携強化。 ・生徒個々の問題の早期発見、及び適切な支援。		
3学年	既習内容の確実な定着と家庭学習時間の確保	・個人面談の充実(年6回以上)、適切な課題量の調整。		

	(平日4時間、休日10時間)。	・進路講演会や進路説明会の実施による学習の動機付け。		
	進路指導の充実。	・進路希望に適した授業の充実。		
		・進路指導室や資料室の活用促進。		
		・校外模擬試験の実施と結果分析、事後の有効活用。		
	国公立大学、難関私立大学への合格者増を目指した指導の工夫及び充実。	・土曜講座や長期休業中の課外授業、探究活動の充実。		
		・小論文指導、英語外部検定対策指導等の継続。		
	最終学年にふさわしい服装容儀の徹底と規範意識の醸成。	・服装容儀指導の実施及び日常生活における注意喚起・指導。		
	交通安全指導の充実。	・生徒指導部との連携による校外指導の実施。		
		・HR活動等を通じた交通安全指導の徹底。		
	心身の健康管理及び教育相談の充実。	・SC、SSW、養護教諭、保護者等との連携強化。		
		・生徒個々の問題の早期発見、及び適切な支援。		
いじめ防止	いじめの未然防止。	・道徳以外の教科でも相互指導力・協同性・同僚性をポイントに置いた授業を実践する。		
		・HR、学校行事、特別活動の場を利用し、自己存在感を養う。		
		・生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。		
		・情報モラル教育を推進する。		
		・いじめは必ず起こるという認識のもと、生徒の観察を怠らず、決してサインを見逃さないように努める。		
	いじめの早期発見。	・ICTを活用しながら年間3回のアンケートを実施する。		
		・生徒や保護者が学校に相談できる関係を構築する。		
		・複数の相談窓口を生徒や保護者に周知する。		
	いじめの早期解消。	・定期的に生徒の様子等の報告会を実施する。		
		・いじめを認知した場合の連絡系統を確認しておく。		
		・いじめを認知した場合まずは実態把握に努め、速やかにケース会議を開き対応を検討する。		
		・インターネットを通じて行われるいじめにも適切に対処する。		
		・保護者と密接に連絡を取り合う。		
	関係機関との連携。	・地域の協力を得ていじめの対応等をする。		
		・警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連携する。		
		・学校以外の場で起きたいじめに適切に対応する。		
		・実践的研修を行う職員研修を設定する。		
	教職員研修。	・事例研究を通して、いじめの対応方法の共通理解を図る。		
		・インターネット環境等に関する研修を計画する。		

※評価規準：A:十分達成できたB:達成できたC:普通D:やや不十分だったE:不十分だった